

地域社会における社会的使命(ミッション)に基づいた経営を考える

- Mission Based Management とは何か -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

5月7日に、宇都宮大学大学院の工学研究科で「経営情報工学特論」という授業を客員教授としてさせていただきました。2時半から夕方5時40分まで、90分2コマで行いました。そこで、どのような内容の講義であったのかをお話させていただきます。

2. 地域社会における社会的使命(ミッション)に基づいた経営を考える - Mission Based Management とは何か -

テーマは「地域社会におけるミッション経営を考える」でした。地域社会でどのような社会的使命をもって経営をしたらよいかということテーマにしました。最終的には卓越した業績、業績にはいろいろな意味があると思いますが、社会的な意味を含めたよい業績を残すにはどうしたらよいかというお話をさせていただきました。

(1) 大事なものは、経営というものは、「企業は昨日のように今日があり、今日のように明日があると考えていると、明後日はない。企業は原則倒産である。企業は、倒産や廃業、消滅にいたってしまう」ということです。これは企業だけではなく、自治体でも、いろいろな公共部門でも、病院でも全く同じです。このような厳しい状況の中で企業やいろいろな組織体などを存続させるにはどうしたらよいか、組織に期待された業績・社会的な意味ある業績を目指すにはどうしたらよいかということを考える時には、経営というものが必要であるということです。

(2) 「経営」という言葉がありますが、これは仏教用語だそうです。経営の「経」は経(へ)る。「営」は営(いとな)みです。後ろから読むと、「経営とは営みを経て人を幸せにする・幸せになるという目的を達成するためにいろいろなことをすることだ」という考え方があります。この「経営とは何か」についての考えは、インタビューの会長の小林恵智さんから教えていただきました。小林さんは、私が非常に親しくさせていただいている ICU 出身のお坊さん(禅僧)で、アメリカ軍のペンタゴンの戦略本部でアメリカ軍の編成の基本を考えた戦略家でもあります。小林恵智さんから経営とは何かの意味を教えていただきました。経営とは営みを経て人を幸せにする・幸せになることであるという考え方もあるということ、まずはじめに紹介させていただきました。

(3)それから、私の講義を通して経営に関心をもってもらい、経営について学びながら、自らの仕事や人生に臨んでもらいたい、そのきっかけをつかんでもらいたいという思いで話をさせていただきました。「独自性のある価値」を提供すべきこと、「戦略は一貫」すべきこと、さらには、「戦略を支えるイノベーション」、「独自の価値提供のバリューチェーン」が必要だという話をしました。また、「しないことを決めること」も大事である。これはしてこれはしないと決めること、これを難しい言葉で「トレード・オフ」と言います。戦略的にやらないことを決めることも極めて大事であるという話をしました。

(4)それから、私が一番困ったことは何か、私もたくさんしましたが、その失敗から何を学んだらよいかについてもお話をさせていただきました。

(5)100名以上の大学院生が受講してくれました。最後に、「私は、一生涯勉強し続ける人間を教育ある人と定義づけている。教育ある人とはやはりずっと勉強し続ける人だと思うので、ぜひともそういう人になってもらいたい。」という話をしました。そのためにどのようなことをしたらよいか、いくつかの具体的な方法を提案をさせていただきました。

その一つとして、世界の動き・潮流を知って自分の頭で考えるために、新聞や雑誌をしっかりと読み込んでほしいということをお願いしました。

また、世の中のしくみを知るために大切な本がたくさんあります。例えば、自由主義、資本主義の社会のしくみを考える上で、理系の学生もアダム・スミスの著作を読むことは役に立ちます。アダム・スミスは3冊の有名な本を書いています。相手の立場で相手の感情を思いはかりながら物事を考えるということが述べられているアダム・スミスの「道徳感情論」があります。また、法令に反しているか反していないかを考える「法学講義」という本も大切です。これもアダム・スミスが書いたものです。このように、自分が自由にやってよいのは道徳や法令の範囲内である、社会のルールの中でのみ経済的行為は許されるのだ、プレイはしてもよいのだということを書き著したのが「国富論」である。理系の大学院生であっても、本はじっくり読むことを説明させていただきました。

法律の勉強も不可欠です。理工系の大学院生でもやはり法律は知っていたほうがよいのです。例えば、民法の知識がないと、その先の法律はわかりにくいです。ですから、我慢をして民法の勉強をしてもらいたい。

経営学部の学生でなくても、少しずつでもよいですから経営の勉強もしたほうがよいのです。経営の勉強をするときには、例えば、ドラッカーやコトラー、マイケル・ポーターなど経営学の大家といわれる人々が著した本はお勧めです。ドラッカーさんは非常に有名な経営学者で、コトラーさんは有名なマーケティングの先生、マイケル・ポーターさんは戦略で有名な方ですので、どんどん勉強していただきたい。そんなに難しくはない、いろいろな経営関係の文庫本が、例えば日経文庫やかんき出版などからたくさん出ています。それも勉強していただきたいと思います。

ただし、理系の修士出身の大半は将来プロフェッショナルになるのですから、一番大事なのはプロフェッショナルとしての教養です。日本の古典として、世阿弥の「花伝書」、宮本武蔵の「五輪書」、二宮尊徳の「二宮翁夜話」、渋沢栄一の「論語と算盤」、松下幸之助の本なども読んでいただいて、プロフェッショナルとなるための勉強もしていただきたいと思います。村上春樹や吉本ばなな、シドニー・シェルダンの本は素晴らしく、読むと気分がよくなり、楽しい時は過ごせますが、プロフェッショナルとしての教養はあまり身に付くとは思えません。このようなこともお話ししました。

最終的には健康が大事です。心の健康と身体の健康を損なったら、闘って自らの力で健康を維持してほしいという話もさせていただきました。

最後に、1日1回は心静かに机に向かう時間を持ったほうがよいという話もしました。

3. おわりに

以上のような内容の話を、5月7日に宇都宮大学大学院の工学研究科で講義させていただきました。

[コメント]

企業経営者が小・中・高校や大学・大学院に出掛けて、児童・生徒・学生に「働くとは何か」「経営とは何か」を経営者として話すことはどれだけ意味があるか、自ら反省すること大ではありますが、要請にはできるだけ積極的にお応えし、自らの使命を少しでも果たしたいと思いつけております。

- 2009年4月9日林明夫記 -